令和２年（2020年）１月21日
１月定例教育委員会
報告事項ウ

「読み解く力」の育成に重点をおいた児童生徒が学びを実感できる授業づくり

（令和２年２月）

児童生徒が「読み解く力」を高め、発揮できる授業づくりのポイント

□単元(題材)や授業で付けたい力(各教科等で育成を目指す資質・能力)を明確にしましょう。
□「読み解く力」を高め、発揮している児童生徒の姿を具体的に想定し、単元や授業を構想しましょう。
□児童生徒が、学習活動に目的意識をもって取り組み、目的に応じて情報を比較・分析・整理したり、他者とのやりとりから知識を再構築したりする具体的な学習場面を設定しましょう。
□１時間の授業で、「読み解く力」のどのプロセスに重点をおくのかを意識し、児童生徒の思考に沿って展開を組み立てましょう。

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

具体的な実践事例を見てみましょう

小学校の事例
ページ【小-1】【小-2】

中学校の事例
ページ【中-1】【中-2】

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課　　滋賀県総合教育センター

小学校　第３学年国語科の実践事例　＊新学習指導要領による

「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

（教材名 「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 三下、関連する図書）

単元目標

・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3)オ
・心に響く場面とその「わけ」となる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」エ
・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元構成（全12時間）

ブックトークで６年生に「じーんとくる場面」を紹介しよう

		主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
第一次		①授業者の本の紹介を聞いて、目的意識をもつ。 ・単元のゴールイメージをもつ。	・「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介するブックトークのモデルを示す。 ・「じーんとくる場面」について共通理解する。	
		②単元のゴールまでの学習計画を立てる。	・児童の意見を集約して、計画に反映する。	・目的達成のための課題、解決のための方法を考え、学習計画を立てようとしている。（態）
第二次	教科書教材	③音読して、物語のあらすじを捉える。	・「誰が」「どうして」「どうなった」のかをおさえ、分からない言葉は国語辞典で調べるように伝える。	・繰り返し読み、場面の様子や登場人物の行動を表す叙述に着目しようとしている。（態）
		④「じーんとくる場面」とその「わけ」について、叙述にもとづいて自分なりの考えをもつ。 ⑤「じーんとくる場面」とその「わけ」を複数の叙述と結び付けて考える。	・自分が選んだ場面の前後に着目することで、自分が選んだ「わけ」が場面の移り変わりや複数の叙述と結び付いていることに気付くことができるようにする。	・選んだ根拠となる叙述を取り出し、登場人物の心情等を具体的に想像している。（思） ・選んだ根拠となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けることを通して、具体的に想像している。（思）
		⑥「じーんとくる場面」とその「わけ」を友達と交流し、再考する。	・全文掲示を行い、着目した部分に記名した付箋を貼ることで、児童が相互に共有できるようにする。	
		⑦ブックトークを行い、グループで感想を交流する。	・前時で考えた場面とその「わけ」に自分の思いを加えて発表できるようにする。	・想像したことについて、課題に沿ってブックトークを行おうとしている。（態）
第三次	自分で選んだ本	⑧関連する図書から自分が選んだ本の「じーんとくる場面」とその「わけ」を考える。 ⑨自分が選んだ本の「じーんとくる場面」を友達と交流する。 ⑩自分が選んだ本を読んだ感想をまとめ、交流し、内容を再考する。	・同じ本を選んだ児童同士でグループを構成し、多様に想像を広げて読むことができるようにする。 ・交流後、自分の考えを再構築する時間を確保する。	・関連する図書のブックトークをするために、読書の幅を広げて本を読んでいる。（知） ・心に響いた場面とその「わけ」となる叙述を場面の移り変わりや複数の叙述と結び付けて、具体的に想像している。（思）
		⑪ブックトークの会ができるように、役割を分担したり、練習したりする。	・「じーんとくる場面」を6年生に紹介して、平和について考えたことを伝えるという目的を再確認する。	・目的を明確にして、ブックトークをしようとしている。（態）
		⑫ブックトークを行う。 ・自分たちのブックトークを振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。	・6年生児童を対象に、司会や進行等、児童が主体となって行う。	・新しい世界にふれて興味が広がった楽しさを感じている。（知）

第６時の展開・指導上の留意点等の詳しい内容はこちら！

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は　　、Bの側面は　　で示す。
※（知）は「知識・技能」、（思）は「思考・判断・表現」、（態）は「主体的に学習に取り組む態度」を表す。

単元構成のポイント

①目的意識を高める

わたしは、この本の「じーんとくる場面」をブックトークで紹介したいな。

⑥友達と交流し、再考する

迷っていることを解決するために、同じ場面を選んだ人に聞くと、解決できたよ。

⑧～⑩学んだことを生かす場面を設定する

これまで学習したことを生かせば、「じーんとくる場面」をまとめられそうだ。

本単元において、特に「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿

◆自分が選んだ本について、教科書教材での学び等をもとに自分の考えを吟味し、聞き手に伝わる内容にするにはどうすればよいか検討する姿（A③）

◆意見の交流後、話し合ったことをもとに、自分の考えを再構築する姿（B③）

「読み解く力」イメージ図との関係

第６時の展開

（全12時間）

本時の目標　場面の移り変わりなど複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

主な学習活動	指導上の留意点（○）・評価規準（□）
1. 単元のゴールを再確認し、本時の学習の見通しをもつ。 ・ブックトークで自分が選んだ物語の「じーんとくる場面」とその「わけ」を紹介する単元のゴールを再確認して、学習の進め方の見通しをもつ。	○学習の目的と学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ○「じーんとくる場面」を説明する「わけ」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
2. めあてをもつ。 **わたしの「じーんとくる場面」をしょうかいするために、一番ぴったりくる「わけ」は何だろう。**	
3. グループで共に学び合う。 ・全文シートの「じーんとくる場面」が記載されている部分に記名した付箋を貼り、同じ場面を選んだ児童同士のグループで話し合う。 ・迷っていることや考えていることなどを出し合い、「わけ」を明確にできるようにする。 グループ学習の目的の明確化 	○掲示している全文を縮小したシートを各グループに渡し、着目した部分の「わけ」を記入した付箋を貼る。
4. 全体で共に学び合う。 ・グループで解決できなかったことを、全体で話し合う。 ・「じーんとくる場面」は決まっているけれど、その「わけ」をどのように伝えればよいのだろう。 ・自分の考えは、○○さんの考えに近いような気がする。 全体交流の進め方の工夫 	○全文掲示の叙述と叙述を線でつなぎ、変化したことを書き込むことで、友達の考えを共有できるようにする。 ポイント ○「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化や情景を読み解くことにつながるようにする。 ポイント
5. 自分で考える。 ・自分が考えた「わけ」を再考し、まとめる。	○共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。 □心に響く場面とその「わけ」を説明するために、場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像している。（思）
6. 学習を振り返る。 ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 ・次時の見通しをもつ。 ・友達の意見を聞いて、もやもやしていた自分の考えがまとまりました。 	○めあてを再確認し、めあてに対しての振り返りになるようにする。

本時の展開のポイント

○全文を掲示して、児童の考えを書き込んだり、叙述と叙述を線でつなげたりしながら学級全体での話合いを行うことで、一人ひとりの考えを共有できるようにする。

○学級全体での話合いを通して、「じーんとくる場面」とその「わけ」を全体で共有することで、一人ひとりが考えを再構築し、本時の目標を達成できるようにする。

どの教科等においても…

◎児童が、目的意識や見通しをもてるようにすることが、必要な情報を取り出すことにつながります。

◎友達の考えを共有するための工夫を行うことで、自分の考えを確かなものにしたり、新しく創り上げたりすることができます。

◎学習活動の中で、児童が「読み解く力」を発揮できるよう展開を工夫することが大切です。そのことが、各教科で身に付けたい資質・能力の育成につながります。

中学校　第１学年数学科の実践事例　＊現行の学習指導要領による

単元構成はこちら（滋賀県総合教育センターHP）

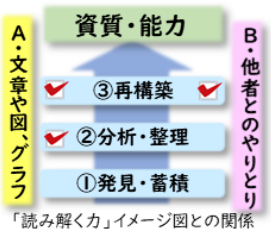
「4章　変化と対応」（啓林館 未来へひろがる数学1）　全16時間・本時は第9時

本時の目標　具体的な事象について、比例の考え方を利用して問題解決を図ることができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

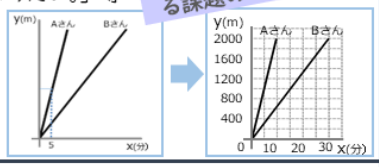
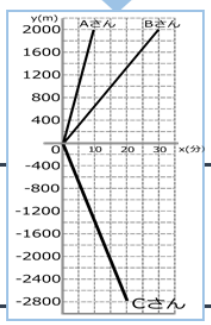
◆比例について、表、式、グラフを活用して、変化の特徴を見いだすことができる姿（A②）

◆具体的な事象を通して比例について考えることで、整理されたり、理解が深まったりしたことを再構築する姿（A③・B③）



「読み解く力」イメージ図との関係

本時（第９時）の展開

主な学習活動	指導上の留意点（○）・評価規準（□）
1. 本時の目標を知る。	○本時が比例のまとめであることを確認する。
2. グラフから情報を読み取る。 ・「Aさんのほうがスピードが速い。」 ・「目盛りがないから見にくい。」等 	○気付きに対して、グラフのどこから判断しているのかを明らかにできるようにする。
3. 問題1について考える。 問題1：学校から東に向かって出発したAさんとBさんが5分後に離れている距離を求めなさい。	○本時の課題につながるように、生徒の意見を引き出す。
4. 本時の課題を確認する。 **5分後に、2人がどのくらい離れているかを調べるには、どうすればよいのだろうか。**	
5. 課題を解決するために必要な情報について考える。 ・「時間と距離の数値が必要だ。」 ・「AさんとBさんの速さが知りたい。」等 必要な情報を発見する課題の工夫	ポイント ○課題を明確にして、一人で考えた後、ペアで交流することを説明し、見通しをもたせる。
6. 課題解決に取り組む。（個人からペアへ） ・グラフから読み取って考える。 ・式に表して考える。等 	○自力解決したことについて、ペアで交流を行う。
7. AさんとBさんのグラフについて、考え方や解決方法をまとめる。 ・「グラフは変化が見やすい。」 ・「グラフでは読み取れない部分もある。」 ・「式は値を代入するだけで、求めたい答えがわかる。」等 	□比例の特徴を捉え、説明することができる。（考） ○グラフや式は、それ単体では読み取ることができる内容に限りがあるが、併用することで多くの情報が読み取れることに気付くことができるようにする。 ○生徒から出た考えを板書し、本時の課題に対するまとめをする。
8. 問題2について考える。 問題２：5分後のCさんとAさんの距離は、どのように求めることができますか。	ポイント ○Cさんの状況をグラフ、式と関連付けて考えるようにする。 ○比例定数が負の数であることと、Aさんと Bさんが東へ進んでいることをもとに、Cさんが西向きに進んでいることに気付くことができるようにする。
9. 本時の振り返りをする。 知識の再構築 ・ともなって変わる2つの数量の関係を比例関係と捉えて式に表すと、一方の数値を代入すれば、もう一方の数値がわかる。式はとても便利だ。 ・グラフを見ると2人の距離にすぐに気が付いた。グラフの見方がわかった。	□比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。（技） ○本時の目標を確認し、比例について考えが整理されたこと、理解が深まったこと、新たにわかったことなどについて振り返るようにする。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は　　、Bの側面は　　で示す。

※(技)は「数学的な技能」、(考)は「数学的な見方や考え方」を表す。

本時の展開のポイント

○表、式、グラフのうち、どれを活用すれば問題を解決できるのか、生徒一人ひとりに見通しをもたせた後、交流の時間を設定し、表、式、グラフを関連付けて考えられるよう支援する。

○AさんとBさんが東へ進んでいるという情報とCさんを含めた3人のグラフとを関連付けて読み取ることから、Cさんは西向きに進んでいることに気付けるよう支援する。

どの教科等においても…

◎表やグラフを読み取り、考えたことを交流することにより、自分の考えを確かなものにしたり、新しく創り上げたりすることができます。

◎複数の情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりするなどの場を設定することが考えを深めることにつながります。

中学校　第１学年英語科の実践事例　＊現行の学習指導要領による

「Daily Scene 4 ウェブサイト」（東京書籍 NEW HORIZON English Course 1）

全2時間・本時は第2時

単元構成はこちら（滋賀県総合教育センターHP）

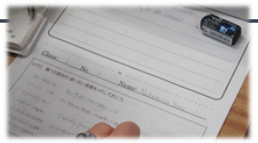
本時の目標　自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、５文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

本時において、特に「読み解く力」を高め、発揮している生徒の姿

◆英語を読んで、必要な情報を読み取る姿（A①）
◆読み取った情報をもとに、語彙や表現を整理し英文を書く姿（A②）
◆グループで情報を共有し、書いた英文を改善しようとする姿（B②）
◆多様な情報をもとに読み深めることで、考えを再構築する姿（A③）

「読み解く力」イメージ図との関係

本時（第２時）の展開

主な学習活動	活動のねらい（☆）・指導上の留意点（○） 評価規準（□）
Input	
1. 本時の目標を知る。 T: Next year, some American junior high school students are going to visit our city. So let's write about our own school.	○前時に学習したウェブサイトのモデル文（教科書教材）の内容や伝え方について振り返る。 ○姉妹都市からの中学生を迎えるにあたり、自分の学校について英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。 ☆英文を書く目的について、場面や対象となる相手等を、英語を通して正確に理解することができる。
Input ⇔ Intake	
2. 自分の学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。 ・海外の学校のウェブサイトを読んで、必要な情報を取り出す。 Ex. Welcome to ~. Our school is ~.	☆海外の学校のウェブサイトを読んで、理解することができる。 ポイント ○表現の仕方やまとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。
・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。 	○取り出した情報をもとに、ウェブサイトで伝えるために必要な語彙や表現を確認する。 ポイント ☆読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる。
Intake ⇔ Output	
3. グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。 	○読み手が知りたい内容を伝えることができるよう、グループで交流して内容や表現をよりよいものにする。 ポイント ○書いた文の内容と伝え方についてフィードバックし、読み手への配慮がある英文となっているかを確認する。 □読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。（表）
Output	
4. 個人で書いた紹介文を全体で共有し、その内容や構成、工夫に着目して読む。 **5. 本時の振り返りをする。** 	☆自分の学校の紹介文を読んで理解することができる。 ポイント ○生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げる。 ○紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったこと等を振り返るようにする。

※「読み解く力」に関わる指導上の留意点や評価規準について、Aの側面は　　、Bの側面は　　で示す。
※（表）は「外国語表現の能力」を表す。

本時の展開のポイント

○まずは、「読むこと」の活動により、自分で英文を書くための情報を読み取る。
○読み取った情報をもとに、必要な語彙や表現を整理しながら自分で英文を書く。
○それぞれが書いた英文やその根拠についてやりとりをして、友達の英文のよさに気付いたり、互いの英文を比較・分析したりすることで、自分の英文をよりよいものにする。
○分析・整理した多様な情報をもとに、新たな英文を読むことで、自分の表現を再構築する。

どの教科等においても…

◎必要な情報を確かに取り出すためには、「目的を明確にして自分の力で文章等を読む」活動を設定することが大切です。
◎様々な情報を他者と共有したり分析したりすることが、自分の情報を整理したり取捨選択したりすることにつながります。
◎情報をもとに考えを再構築する活動を位置付けることで、生徒が「わかった」「できた」を実感できるようになります。

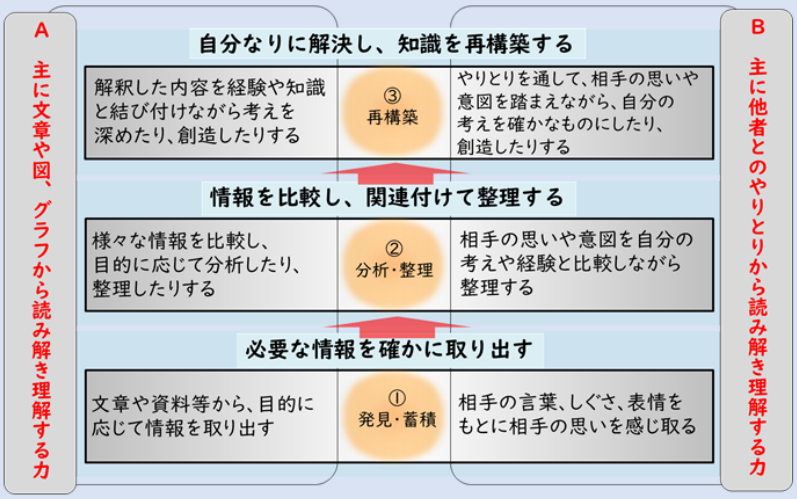
「読み解く力」って？

右の図のように「読み解く力」を、AとBの２つの側面と①～③の３つのプロセスで整理しています。「読み解く力」は全ての教科等の学習や、普段の生活での友達との会話や遊び、読書など様々な場面で発揮される力です。「読み解く力」が身に付くと、学習したことをどんどん広げて活用できるようになります。

「読み解く力」を高め、発揮するためには、児童生徒が目的意識をもって学習活動に取り組むことが重要です。

教科等において必要な情報を取り出し、それを根拠にして考えを構築し、対話することで考えを磨き、再構築につなげていくことが、各教科等での目指す資質・能力を確かに育成することにつながります。

「読み解く力」イメージ図



＊令和元年度の実践研究をもとに一部改訂しています。

「読み解く力」の視点を踏まえた授業を実践して

「読み解く力」を意識して単元や授業をつくるなかで、子どもたちが**「取り組みたい」と思う課題を設定したり、グループ学習を効果的に位置付けたり**することで、子どもたち自身が成長を実感することができました。

目的意識をもたせることで、子どもたちが必要な情報を取り出すために真剣に教材に向かい、**自分の考えを深めること**ができていました。

一人では難しかった課題を、友達とのやりとりを通して解決し、「めあて」を達成する経験を繰り返すことで、学習後の振り返りに**「自分たちで学習をつくっている」**という言葉が見られるようになりました。

グループ学習での目的を明確にし、見通しをもって段階的にステップアップしていく単元計画を立てることは、**学びにくさのある子どもたちへの支援**にもつながることを実感しました。

高等学校では

「読み解く力」をもとにした「探究的に学ぶ力育成プロジェクト」を通して、生徒が**探究活動**をうまく進めていくためには、「答えが一つに定まらない問題」について、**対話的に深く学ぶこと**ができるかどうかを重視し、実践していくことが大切だと思いました。

※小中学校での「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりを高等学校へつなげていくとともに、言語により分析したり表現したりする学習活動や、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動について、一層進めていきたいと考えています。

「読み解く力」に関する最新情報はこちら
https://www.pref.shiga.lg.jp/edu/school/kousou/

滋賀県教育委員会トップページ>学校教育
>構想・計画・指針等

研究内容・実践事例はこちら
http://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1577322312536/index.html
滋賀県総合教育センター
令和元年度研究成果情報「読み解く力」プロジェクト研究